

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 133 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長 橋本 満義 (71歳・内科)



瞬く間に広がったコロナ禍時代。私たちの生き方、ライフワーク、そして在宅医療の現場も一変させた。

それは令和2年の夏ごろ、M.Kさん(80歳男性、末期がん)の在宅医療中の出来事です。

朝の9時ごろでした。患者さん宅へ定期訪問看護に向かう道が大雨による土砂災害で塞がれてしまったのです。その山村の集落は孤立集落となってしまいました。その後、地元消防署により看護師は救出され、同日夕方には生活道路も確保できたのです。

災いは続くもので、今回の新型コロナウイルス感染症によって、在宅訪問マニュアルは激変しました。すなわち感染予防対策の導入です。

- ①在宅グループ(医師・看護師・介護士・助手・事務員)を2班(A・Bグループ)に分け、お互いの接触を断つ。もしAグループ内で濃厚接触者が発生した場合、Aグループ全員を2週間の休みとし、Bグループで全てをカバーする。
 - ②在宅医療患者さん宅への訪問スタイル
主病名の病状に合わせて、マスク、マウスシールド、フェイスシールド、防護服などを適時使用する。
- 最後に「新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者さんへの対応は、速やかに社会通念上の方針通りとす」は当然のことです。

私たち在宅医療現場関係者からのメッセージとしては、一つの結論に達しています。

大雨による土砂崩れ、豪雪、路面凍結、火山噴火、地震などは「地球は生きている」証しです。そして、動物、食物、ウイルスなどは、地球上の生き物といった位置づけです。「愛と叡智を矜持とす」を哲学とし、令和の時代を生きましよう。こうしてはじめて未来に夢を持てるのではないのでしょうか。また、これを実行できるのは人間です。

私たちは過去、経済活動と称して森林伐採や動植物の乱獲を行い、自国の安全と称して原爆・水爆を開発した歴史があります。

あらためて問う！
私たち人間は地球に優しかったのか？
地球に迷惑をかけてきたのではないのか？
私たちは今後ずっとこの命題を問い続け、二度と過ちその「愚」を犯さない、繰り返さない。
これをライフワークとして、「人類が豊かで、幸せな夢」を持てるように！！

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人たちを救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ
外来診療 (かかりつけ医) **内科** 要予約
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(医師/薬村 歩)

お医者さんが来てくれる！
24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 22名 (令和3年2月現在)

末期がん治療 (緩和ケア) 相談室開設!

訪問診療

（医）東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/